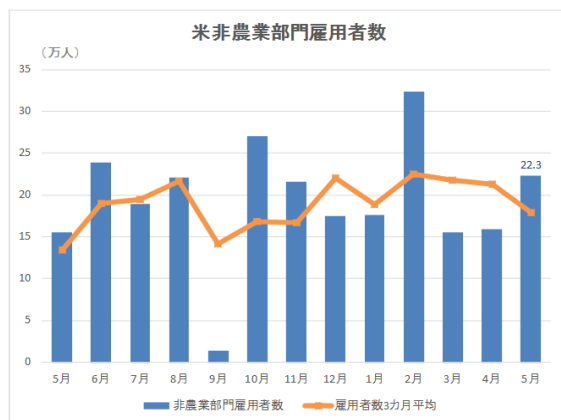


米5月雇用統計レビュー

米労働省が6月1日に発表した5月雇用統計の主な結果は、①非農業部門雇用者数22.3万人増、②失業率3.8%、③平均時給26.92ドル(前月比0.3%増、前年比2.7%増)という内容であった。

米5月雇用統計(4月)	
①非農業部門雇用者数	22.3万人増(15.9万人増)
②失業率	3.8%(3.9%)
労働参加率	62.7%(62.8%)
不完全雇用率	7.6%(7.8%)
③平均時給	26.92ドル(26.84)
平均時給[前年比]	+2.7%(+2.6%)

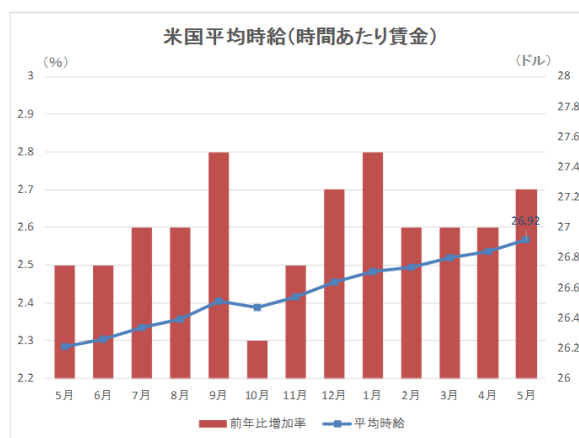
①5月の米非農業部門雇用者数は前月比22.3万人増と、4月の15.9万人増から伸びが加速した。市場予想の19.0万人増も上回った。好天の影響もあって建設業が伸びたのをはじめ、幅広い業種で雇用が拡大した。3カ月平均では17.9万人増と、ややペースダウンしたが、高水準を維持しており減速の印象は乏しい。



②5月の米失業率は3.8%となり、2000年4月以来の低水準を記録。市場予想の3.9%を下回って改善した。ただ、求職者を含めた働き手の割合である労働参加率が前月の62.8%から62.7%に低下したことが失業率を押し下げた面もある。なお、フルタイム職を望みながらもパート職で勤務する人なども含めた広義の失業率(不完全雇用率)は7.6%となり、2001年5月以来の低水準に改善した。



③5月の米平均時給は26.92ドルとなり、前月から0.08ドル増加。伸び率は前月比+0.3%、前年比+2.7%で、市場予想(前月比+0.2%、前年比+2.6%)を上回った。なお、前年比で伸びが加速したのは、今年1月以来4カ月ぶりだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

今回の米5月雇用統計は、米連邦公開市場委員会(FOMC)の6月利上げを後押しする内容だったと言えるだろう。雇用者(非農業部門)が92カ月連続で増加し、失業率は18年ぶりの水準に低下している。焦点の賃金についても、堅調な伸びを示しており、今後インフレ上昇圧力となる可能性を示唆している。発表後には、今年の利上げ回数がFOMCの見通しである3回を上回り、4回に加速するとの見通しも浮上。3月利上げに続き、6月、9月、12月の3会合でいずれも利上げを行う確率が3割程度にじわりと上昇した。この雇用統計を受けて米国株が買われ、米国債が売られる(金利が上昇)とともに、ドルが上昇した。イタリア・スペインの政局や、米中貿易摩擦への懸念がくすぶる中、米5月雇用統計が沈滞ムードだった金融市場に喝を入れる格好となった。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com